

# 第28回 全通研討論集会レポート

## 第7分科会「聴覚障害者の暮らしを見つめて(医療)」

日時：2012年2月11日(土)・12(日)

会場：宇都宮大学 陽東キャンパス

### <提出レポート>

- ◆ 茨城支部医療班の活動報告 (茨城)
- ◆ 宮通研医療班2011年の活動報告 (宮城)
- ◆ 医療班主催研修会 (東京)
- ◆ 医療の難しい言葉をどのように表現すれば通じるか、みんなで考えよう！  
(山口)
- ◆ 聴覚障害者と災害 (千葉)  
～東日本大震災聴覚障害者救援中央本部医療メンタル班への協力と課題～
- ◆ 医療班の結成と取り組み状況について (島根)
- ◆ 手話通訳者懇談会・「血圧チェックコーナー」を実施して (兵庫)

神通研 医療班

今回の医療班の分科会では、8つの支部(茨城・宮城・東京・山口・神奈川・千葉・島根・兵庫)からのレポートが発表された。

## —茨城支部の活動報告—

### 《行事への取り組み》

- ・年1回の『茨通研の集い』で分科会を担当
- ・『成人病予防』『乳癌検診』『血液検査』などの勉強会や出前講座
- ・『新型インフルエンザ』や『はらすまダイエット』などの学習会
- ・県ろう者大会での血圧測定や健康相談
- ・放射線技師会主催の見学会・交流会

放射線技師を対象に、聴覚障害者への対応を医療班が事前講習会を行ってから放射線科を見学。検査室を見るだけでなく、模擬検査も実施。カードを用いたり筆談で伝えるなど、様々な工夫があった。最後に意見交換を行い聴覚障害者に対する検査の改善案を討議した。

### 《その他の活動》

- ・啓蒙ツールの研究・製作

成人病予防を目的とした「はらすまダイエット」のDVD製作を開始。聴覚障害者へ普及してほしいとの声があり、ダイエットの概要や実践方法について手話通訳・字幕をつけた。

- ・消防署・聴協と緊急時対応方法を検討

FAX119について・・・問診時の時間を短縮できるようにするため、症状や部位などが書き込める専用の用紙を消防署と協力して検討中。

## —発表後の意見—

- ・緊急時、FAX119はFAXのある場所でしか使えないので、どこでも使えるシステムを考える必要がある。  
広島ではGPSを用いた緊急時通報システムを取り入れている。
- ・以前レントゲンを撮ったとき直接体に触れられ、体を動かされた。手伝われるよりも自分で動いたほうがいい。通訳は検査室に入れないので、モニターで手話や字幕での説明があれば、確認して自分で動ける。

## —宮城支部の活動報告—

### 《行事への取り組み》

- ・聴覚障害者に関わる医療を考えるミーティング
- ・耳の日記念手話まつりでの血圧測定・握力測定・体の痛みの相談  
利用者の中には症状が重く、医療機関での受診が必要な方がいた。
- ・定例会の再開  
3. 11の東日本大震災以来、休止状態になっていた活動を再開。5月に例会を臨時開催し、7月からは月1回の例会を行っている。
- ・地域班との共同例会  
塩分の取り方や高血圧と食事について話し合った。
- ・宮通研『特別手話講座』にて「頸肩腕症候群」予防ストレッチの情報提供

### 《震災を受けて》

県内に「東日本大震災聴覚障害者救援宮城本部」を設置。それぞれの立場や環境に合わせて可能な範囲で支援活動に取り組んだ。震災後のガソリン不足などにより交通手段がなく、文化施設や市民センター・公民館などはボランティアセンターの拠点になったり避難所として使われているため、集まれる場所がなかったりと、活動への影響も大きかった。そんな大変な状況の中、この震災から得たことは、仲間とのつながりや活動を継続していくことの大切さであった。

## —発表後の意見—

- ・集まりの場に来れなかったろう者への対応と、津波の情報が聞こえなかったろう者への今後の対応は？  
—知っている範囲で、来れなかったろう者のお宅を1軒1軒訪問し、会員・非会員関係なく安否確認をしたが、すべて把握できていないのが現状。今後は周囲と相談をしてろう者への対応を考えていきたい。

## —東京支部の活動報告—

### 《行事への取り組み》

- ・研修会「医療の言葉第2弾—問診票から医療を語る—」を開催  
第1弾では、分かりづらい医療専門用語の意味を解説し、手話通訳者が正しく通訳できることを目的とした講習会を開催。

それを受け、今回は問診票についての研修会を開催した。

### 《研修会の内容》

- ・ 4つのグループに分け問診票を元に、それぞれがどのように手話表現をするか討議した。
- ・ 各グループの代表者に内容を報告してもらい、ろう者4人に討議の感想や病院について思っていることを自由に話してもらった。

### 《グループからの意見》

- ・ 「どのような症状でお困りですか？」は回りくどくてろう者にはわかりにくい。簡単に「今日来たのはなぜ？」「体のどこが痛くて来た？」などの方がわかりやすい。
- ・ 「症状」という言葉と「熱がある」「痛みがある」との関連性がわからないろう者もいる。
- ・ 「他の病気」で知りたいのは慢性疾患(高血圧、糖尿病など)のことが主だが、ろう者には結びつかないことが多い。『なぜほかの病院の話など聞くのか?』と思うろう者もいる。
- ・ 「血のつながった方で」具体的に両親や兄弟など出すことで間違いはないが、簡単に「家族」と表すと夫や妻といった配偶者もそれに含まれる勘違いが起こる。
- ・ 「授乳中ですか?」だと粉ミルクの場合でも『はい』と答えるかもしれない。「母乳」の表現をすることが大切。

**外来問診票(表)**

初診の方は、下記の質問にお答えください。

氏名 (男・女) 姓・名・姓・平 年 月 日  
職業 体重 kg 身長 cm 体温 °C

1. いつ頃からどのような症状でお困りですか?  
(いつ?) (どんな症状?)
2. 現在、何かの病気で治療を受けていますか?  
(はい、いいえ) 病名 ( )  
病院 ( ) もらっている薬 ( )
3. 今までにかかった病気を○で囲んでください。それはいつごろですか?  
(時期、年齢)  
いつ頃 ( ) いつ頃 ( ) いつ頃 ( )  
心臓病 ( ) 肝臓病 ( ) 腎臓病 ( )  
高血圧 ( ) 糖尿病 ( ) 胃潰瘍 ( )  
喘息 ( ) 高脂血症 ( ) 結核 ( )  
がん ( ) 精神疾患 ( )  
その他 病名 ( ) いつ頃 ( )
4. 今までに手術や入院をしたことがありますか?  
手術 (病名) いつ ( ) 入院 (病名) いつ ( )
5. あなたと血のつながった方の中に、次の病気にかかった方はいませんか?  
(がん、糖尿病、喘息、高血圧、結核、精神疾患)
6. 今までに薬でアレルギーを起こしたことがありますか?  
(はい、いいえ)  
(ペニシリン、セフェム、鎮痛剤(ピリン系など)、造影剤)  
その他でも薬の名前が具体的にわかれば ( )
7. 嗜好品についてお聞きます。  
酒(一日量) ( ) タバコ(1日 本 年間)
8. 食欲はどうか? (良、不良) 便秘はどうか? (良好、便秘)
9. 女性の方のみお答えください。  
妊娠中ですか (はい、いいえ) (妊娠 ヶ月)  
授乳中ですか (はい、いいえ)  
月経(順調、不順)  
最終月経( 月 日 ~ 月 日) 閉経( 才)
10. その他、気になることなどあればお書きください。  
( )

-69-

### 《ろう者の意見》

- ・ 特に「がん」の場合は小さな手話で話すので、通訳も大きな手話はやめてほしい。
- ・ 若いうちは通訳を使うことが少ない。ほとんど一人で行き筆談で受診している。しかし高齢ろう者は手話通訳が必要。専門用語をそのまま手話に置き換えても通じないことがあるので、高齢ろう者にも通じる手話技術が必要となる。

- ・病名が漢字で書かれていれば、その病気を完全に理解はできないが漢字からイメージはできる。

#### —発表後の意見—

- ・なぜ若い人は通訳を頼まず筆談で受診するのか？  
—通訳を頼むことが煩わしい。高齢ろう者と比べ、文章力があるので筆談で済ませてしまう。
- ・ろう者へわかりやすく説明するには、どのように表現すべきか？  
—病名などはろう者の表す表現を見る。医療手話の本などに載っている表現はろう者に通じないこともあるので、やはりろう者に聞く方がいい。相手の理解度を知ることも重要。

#### —山口支部の活動報告—

##### 《行事への取り組み》

- ・通訳者・手話奉仕員を対象にした学習会を実施  
研修会では、医療の難しい言葉をどのように表現すればろう者に理解してもらえるかということを目的とし、その方法を学習した。

##### 《学習の内容》

- ・ろう者と通訳者(通訳士)を含めた5～6人のグループを10グループ作り、2グループは同じテーマについて言葉の表現を考える。

##### —テーマ—

- ① 炎症・感染症
- ② ジェネリック医薬品・抗生物質
- ③ アレルギー・アトピー
- ④ 脳卒中・脳梗塞
- ⑤ 心不全・心筋梗塞

##### 《学習会を終えて》

- ・予想以上に、ろう者の医療に関する知識が少なかった。
- ・家族に健聴者がいる場合、ほとんど家族任せになっていて、自分の病気について知識を持たない。
- ・思い込みで通訳することの危険性を感じた。
- ・医師の協力も必要である。

—発表後の意見—

- ・学習会のテーマについて、症状のことも学習したのか？  
—今回は単語の意味だけについて考えた。
- ・思い込みで通訳することの危険性とは？  
—間違った知識で通訳してしまうこと。
- ・例えば『炎症』の意味が分からないろう者に分かるように、通訳者が医師に別の言い方など尋ねてもいいのでは？  
—通訳者が自分の持っている知識に自信がないときは医師に聞くべき。あやふやな知識で通訳してはならない。
- ・言葉の意味が分からなかったり勘違いするのは、ろうあ者だからではなく健聴者も同じ。絵や写真を使うことで説明の勘違いや誤解を防げるのでは？  
—今後そのように進めたいと思います。

—千葉支部の活動報告—（聴障・医ネット）

《行事への取り組み》

- ・1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災の医療支援活動をきっかけに1996年2月に発足した『聴障・医ネット』。今回の東日本大震災での支援活動について報告があった。
- ・地震直後より、聴障・医ネットメーリングで情報交換が活発に
- ・幹事間で協力団体への申し出、ウェブ情報の更新等を検討
- ・東日本大震災聴覚障害者救援中央本部 第1回中央会議に、協力団体として参加
- ・東日本大震災災害おける医療支援の登録開始
- ・医療メンタル班調査活動へメンバー派遣 目で聴くテレビへの原稿提供、マスク・湿布薬提供などを実施
- ・第30回医療関係者のつどいで活動・体験報告

《メンタル班からの調査結果》

- ・まず第一に、手話通訳をはじめとする情報保障が早急に必要。またその上での生活支援も必要。
- ・聴覚障害者の生活支援に応えられるのは、聴覚障害者の特性を正しく理解する相談支援の専門家であるろうあ者相談員である。
- ・心のケアチームが全国各地から被災地で支援活動しているが、聴覚障害者には機能していないので、対応したメンタルケアのサポートが必要。

### —発表後の意見—

- ・臨床現場で勤務している医療従事者は緊急の要請には対処しにくい面があり、支援の在り方については引き続いて今後の課題にしたい。
- ・震災後、現地の状況が分からないまま支援を行うためにやみくもに現地に駆け付けても、どんな支援のニーズがあるのかも分からないので、報告を待ってから支援を行った。

### —島根支部の活動報告—

#### 《行事への取り組み》

- ・手話まつりにおける展示と血圧測定  
初めての試みとして「医療班コーナー」を設置し、健康情報の展示と血圧測定を行った。ほぼ途切れることなくろうあ者が訪れ大盛況。しかしスタッフは支部会員一人で行っており、対応が間に合わず、急遽、別の看護師に協力を仰いだ。これは、ろうあ者にとって医療の面での活動が必要なことを改めて感じさせられる場面であった。
- ・サプリメントについての学習会  
栄養と健康、サプリメントについての講義を行い、その後、参加者から質問してもらった。参加者からは、自分の飲んでいるサプリメントの効果や飲み方などの質問があった。中にはサプリメントの販売方法に疑問が感じられる話題の提供もあった。(ねずみ講など) こうした機会を通して適切な情報を伝えていくことの重要性を感じた。
- ・医療手話通訳経験者を対象とした研修会  
参加対象は、手話通訳者・登録奉仕員の中で医療通訳経験のある人。研修内容は医療現場を設定して模擬通訳(ロールプレイ)を実施。医療知識の必要性、伝える技術の工夫など、たくさんの課題が見え、充実した内容であった。
- ・第19回中国地方合同手話研修会分科会「医療」の取り組み  
中国地区合同手話研修会において「医療」をテーマにした分科会が開催され、島根からは『松江市立病院の手話通訳設置』について報告をした。

#### 《報告の内容》

- ・松江市立病院に手話通訳者が設置される経過とその変遷  
昭和50年代、松江市役所の設置通訳は1名。病院通訳の依頼が増え、市の設置通訳者1人では対応できず、ろうあ者は自分で手話のできる知人に

通訳を依頼するなど「いつでも安心して受診できる」状況ではなかった。平成4年、松江市聴障協はろうあ者の健康・生命を守る情報保障のため、松江市立病院に手話通訳者の設置を要望し、手話通訳者の設置の実現を果たした。平成23年4月より長年の要望でもあった月曜から金曜までの手話通訳の設置が認められた。

- ・現在の状態にまで要望が実現できた要因と今後に向けて  
市聴障協が根気強く要望を続けてきたこと、病院職員に理解が広がり支援を得ることができたこと、病院の新築移転というタイミングに合わせた要望ができたこと、ろうあ者が医療現場で非常に困難な状況に置かれていることへの理解が広まったことなどが要因として挙げられる。今後も市や病院側と連携を図り、ろうあ者が安心して医療が受けられるよう、見直していきたい。

#### —発表後の意見—

- ・病院の設置通訳の具体的な活動とは？(曜日や時間など)  
一月曜から金曜までは、3人が交代で担当し、必要時には2人が補助として対応する。午後の予約診療および緊急の場合は5人で対応している。
- ・設置通訳の雇用条件について。時給は？  
—なかなか時給は上がりません。松江市立病院では時給いくらではなく、通訳1回でいくら。金額については確認なし。
- ・もし、医療事故が起きた時の対処法は？  
—院内通訳の場合、責任は病院側にあるので、病院側で対応する。
- ・『ろう者が安心して受診できる病院 = 通訳者が安心して働ける病院』  
感染予防の方法は？また、ワクチンなどは自己負担なのか？  
—インフルエンザワクチンは自己負担なしで受けることができたが、その他のワクチンなどについては、新体制になって間もないので報告は上がっていない。通訳者の感染予防策については大きな課題になっている。
- ・病院内での研修の参加補助はあるのか？  
—特になし。行政も病院も通訳に対してボランティア感覚である。待遇を良くしていくためには、運動を起こしてもっと訴えるべきである。
- ・病院の設置通訳者がたくさん変わることによる問題点は？  
—通訳者の間では情報の共有はできているが、ろう者にとって、通訳者がこころろ変わることは不安要素になってしまう。
- ・ろう者が自分の行きたい病院に通訳をお願いしても、役所側は設置通訳の居る別の病院を進めてくるときがあるが…？  
—ろう者にも病院を選ぶ権利がある。設置通訳の居ない病院でも、ろう者



がたくさん通院することで、通訳が設置されるのでは。

## —兵庫支部の報告—

### 《行事への取り組み》

- ・手話通訳者懇談会への参加  
医療場面での通訳の悩みや課題も多く、聴覚障害者にとって、より良い医療が提供されるよう話し合いの場を設けた。
- ・各地域の状況  
兵庫県内を8つのグループに分け、各地域での実情の把握と情報交換に努めた。通訳者の悩みはそれぞれ似ているが、制度や活動の中身についてはバラバラ。
- ・県ろうあ者大会での『血圧チェックコーナー』  
ろうあ者大会の参加者が、自身の血圧について関心を持つと共に、視覚的情報により健康意識を高めるきっかけを得ることを目的とし実施。治療中であるにも関わらず血圧の高い人には、自身の血圧測定の結果を持参して再診時医師に示すことを勧めた。

### 《今後の課題》

- ・聴覚障害者が安心して受診するために、「聴覚障害者にやさしい病院マップ（仮称）」の作成
- ・各自問題意識を持って通訳活動にあたるために、手話通訳者だけの集まりではなく医療従事者も巻き込んだ話し合いを持つ
- ・健康意識を高める啓発・啓蒙活動
- ・健康相談への対応
- ・医師・栄養士など医療関係者の拡充

## —発表後の意見—

- ・『ろうあ者にやさしい病院』とは？  
—筆談や図で説明がされている等、何かしらろうあ者に対する対応を工夫してくれている病院。通訳だけに頼るのではなく、その病院でできることを考えてくれているかどうか。
- ・マップに載っていない医院が、それを見たときの反応が気になる？  
—作成したマップはあくまでろう者の意見で作ったものであり、ろう者に対するマップである。ろう者自身が安心して行ける病院であるということ。

## —ろう者の視点から気づいたこと—

- 通訳の申請をして返事が来るまで病院に行けない。もっと自由に病院に行きたい。
- できれば同性の通訳者に来てほしい。異性の通訳者だと、診察内容によって恥ずかしい時もある。
- 近所の医院でも見学会を実施してほしい。
- 通訳者によってレベル(手話技術)がまちまち。もっと学習を積んでほしい。
- 暗い場所での視力検査では、通訳者の姿が見えづらい。何かいい方法はないか？
- 医者はもっと優しい気持ちを持つべき。怒る医者だと次回から行きたくなくなる。

—(医者からの意見) 医者の顔が怖いとよく言われるが、そんなことはない。考え事をしているときは、人間誰しも自然と顔がしかめっ面になる。いつもニコニコというわけにはいかない。どうぞご理解ください。